



吉例ラフソント	
理性家には	M・セメイオン(四)
蒐集の果	J・パスチエ(六)
豚乙女	R・ラプエス(二三)
幽霊	L・マルタン(二四六)
金曜日の容	S・ルドワブ(二六)
謎の四人	カヴァイラン(三六)
若き人々へ	A・ランソン(三〇)
鱈鮫の主人	F・トウランス(二八)
美男歯医者	グラニール(三八)
簡單なる人々	ブランドン(三四)

明治初期に探偵小説傳奇小説  
譯された探偵小説傳奇小説

探偵小説はどうなつたか  
鹽の象徴的意義  
アデュウ・アメリカ!  
ルヴェルを憶ふ

「夜鳥」禮讚  
田中早苗君とモーリス・ルヴェル  
少年ルヴェル

海葉卷綺譚  
濱素晴しき思付

物	語
後宮へ迷ひ込んだ裁判官	歯醫者の選擇

とえて・たえて
昭和ビルデング
友よ
我儂の徳
處女マリア
芝生に上るべからず
惡魔の蠟燭
廻る水車

長篇切巴里の秘密  
平林初之輔譯

卷頭 オフセット 色刷 漫畫 十六頁